

これまでの動きについて

1. 観光交通対策の新たな取組

- 観光渋滞対策の新たな取組として、『観光交通イノベーション地域』を選定。
- また、『観光交通イノベーション地域』に活用する新たなICT・AI技術を公募。

①観光交通イノベーション地域

「観光先進国」の実現に向け魅力ある観光地を創造するため、
ICT・AI等の革新的な技術を活用し、警察や観光部局とも連携しながら、
エリアプライシングを含む交通需要制限などの
エリア観光渋滞対策の実験・実装を図る地域



②オープンイノベーション

「観光イノベーション地域」において、交通マネジメントに活用する
新たなICT・AI技術を公募

新たな取組(①観光交通イノベーション地域)

- 平成29年8月 国土交通省が「観光交通イノベーション地域」を公募。
- 平成29年9月 京都市が「観光交通イノベーション地域」に選定。

平成29年8月2日 「観光交通イノベーション地域」を公募

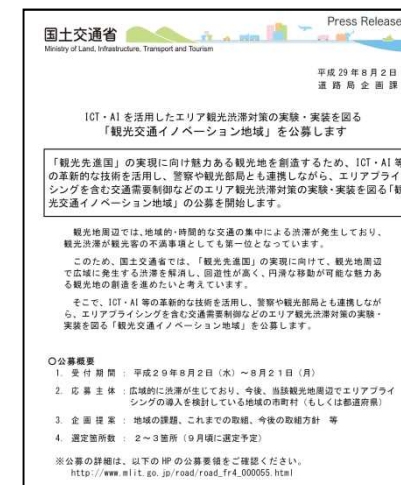
【公募概要】

1. 受付期間：平成29年8月2日(水)～8月21日(月)
2. 応募主体：広域的に渋滞が生じており、今後、当該観光地周辺でエリアプライシングの導入を検討している地域の市町村(もしくは都道府県)
3. 企画提案：地域の課題、これまでの取組、今後の取組方針 等
4. 選定箇所数：2～3箇所

全国から4地域から応募

平成29年9月7日 「観光交通イノベーション地域」を選定

- 「地域道路経済戦略研究会」(座長 羽藤英二 東京大学大学院教授)の意見も踏まえ、
ICTによる人や車の動向把握等の実証実験に着手するなど、エリア観光渋滞対策の実験実施地域として2地域を選定し、
 また、ICT・AIを活用した観光渋滞対策の実装に向けた
今後の取組方針や実験計画等の更なる具体化に向けて、検討を行う地域として2地域を選定。



ICTによる人や車の動向把握等の実証実験に着手するなど、 エリア観光渋滞対策の実験実施地域	
選定地域	鎌倉市・京都市
選定理由	地域の課題や、これまでの取組を踏まえ、面的に観光渋滞対策を行うエリアの絞り込みが行われている。こうした地域の取組と連携することにより、ICT・AIを活用した観光渋滞対策の実装が期待できる。

今後の取組方針や実験計画等の更なる具体化に向けて、 検討を行う地域	
選定地域	軽井沢町・神戸市
選定理由	地域の課題やこれまでの取組を踏まえ、面的に観光渋滞対策を行うエリアの絞り込みを行うことが必要。今後、対策実施エリアの絞り込みに向けた検討等を進めることにより、実験実施環境が整うことが期待される。

新たな取組(②オープンイノベーション:新たなICT・AI技術)

- 平成30年1月 国土交通省が「観光交通イノベーション地域」において交通マネジメントに活用する新たな技術を公募。
- 平成30年7月 「人・車の流動を分析する技術」等で17技術を選定。

平成30年1月23日 新たなICT・AI技術を公募

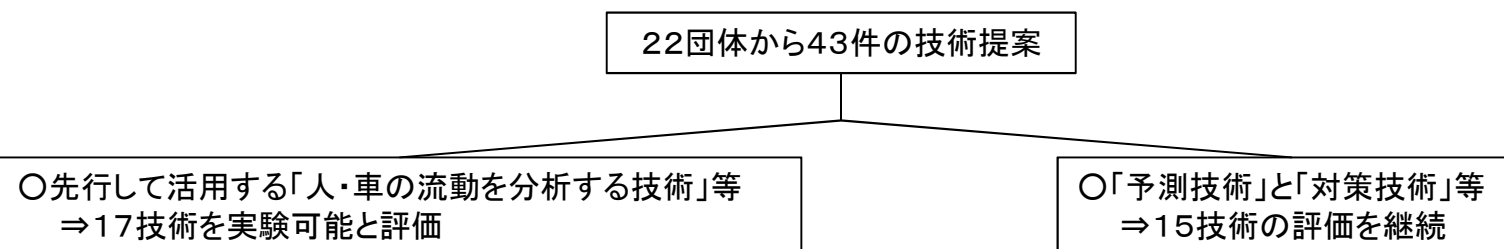
【募集する技術】

- ①人の動きを面的に把握・集約する技術
- ②人とクルマの流動を連続的なものとして把握・集約する技術
- ③イベント内容や気象、暦等のデータを用いて交通状況を予測する技術
- ④予測結果に基づき適切な対策を立案する技術
- ⑤上記一連の取組に必要な技術を統合しマネジメントする技術
- ⑥その他エリア観光渋滞対策の実装に資する技術

22団体から43件の技術提案

平成30年7月20日 新たなICT・AI技術を選定

○技術の提案者への個別ヒアリングや「交通マネジメント新技術評価委員会(委員長:福田 大輔 東京工業大学環境・社会理工学院准教授)」での議論を踏まえ、提案技術のうち、先行して活用する「人・車の流動を分析する技術等」について、現地での実証実験が可能な技術として17技術を選定。



2. 京都市(観光交通イノベーション地域) における社会実験

○ICT・AI等を活用した実験の計画的・効率的な実施に向け、学識経験者、国土交通省、京都府警察、京都府、京都市、観光協会、商工会議所、JR西日本による協議会を設立。
○平成30年2月 第1回協議会を実施し、今後の取組について確認。

平成29年9月 京都市が「観光交通イノベーション地域」に選定

『京都エリア観光渋滞対策実験協議会』を設立

≪目的≫ 京都におけるICT・AI等を活用したエリア観光渋滞対策等の 実装に向けた実験が計画的かつ効率的に推進が図られるよう、必要な検討と調整を行うことを目的とする。

平成30年2月 第1回協議会を開催

≪決定事項≫

■今後の主な調査内容

- ①嵐山地区・東山地区への車の流入・流出の状況
- ②嵐山地区・東山地区における人の流動・滞留の状況
- ③京都駅や嵐山地区・東山地区の拠点間移動の状況

■今後の取組

- 既存のETC2.0データ等による渋滞状況の分析
- より詳細なデータ分析に向けて、可搬型ETC2.0、AIカメラ設置の検討
- 人・車の動向把握等を行う新たな技術の現地実験

平成30年度 ICT・AI技術を活用した社会実験実施